

平成二十二年度 大学院文学研究科国文学専攻

修士論文 題目

今和泉意図弥 慣用句出現形の制約に関する研究

増澤菜摘 動詞連用形名詞の分類に関する研究

小池由華 泉鏡花作品論——赤を中心に——

平成二十二年度 文学部国文学科

卒業論文 題目

池田三枝子ゼミ

青山美理 万葉のホトトギス

——家持のホトトギスに寄せる思いとは——

池谷怜奈 アマテラス神話研究

石川真菜 万葉の富士山の魅力

——山部赤人「不尽山歌」を中心に——

伊東李花 日本文学における鬼

——『風土記』を中心に——

大野有紀 『但馬皇女研究』——悲劇の歌物語——

菅野千春 「安積山の歌」研究

久保田真由美 有間皇子研究

熊田優佳 ヤマトタケル研究

小谷由紀 隠されたツクヨミ神話

後藤文香 ヤマトノヲロチ神話考

島崎ひとみ 天人女房譚

——万葉集七夕歌に見える姿——

菅原美穂 万葉の秋——「春秋競憐歌」を中心に——

西向理英 末子成功譚

——海幸山幸神話を中心として——

長谷川夏樹 大津皇子研究——その物語性を探る——

前田亜美 安倍晴明考

神山奈都子 紀女郎論〜紀女郎の怨恨歌〜

棚田輝嘉ゼミ

有賀香織 心の闇——乙一の描く恐怖の世界——

小野寺真純 君に代わっておしおきよ！

〜漫画における戦闘少女達〜

菅野由香里 伊坂幸太郎の祈り

——生と死を見つめる——

喜多優理 a man of heart〜東野圭吾が描く人情家〜

北川奏美 Art-School 木下理樹歌詞研究

——「鬱ロック」の魅力とは——

小関桃李

ロココなココロ

——洋服からみる嶽本野ばら乙女論

須田彩夏

陸へ、墜ちる

——森博嗣『スカイ・クロラ』の世界

谷今日子

マンガに描かれた現代文化

——時代背景と変化

辻真梨乃

寺山修司論——「私」を形成するもの

西本未季

すみません、ただの構ってちゃんです

——金原ひとみが描く普通の女の子

仁平瑞希

愛のかたち、受け継がれるまなざし

——小川未明が描いた母親像

羽鳥菜津美

現実と小説に生きる

——市川拓司の描く愛と死

升井理恵子

まどさんの命のみち——死生観の窓

渡邊瑠美子

村上春樹の二つの世界

——生と死をめぐる

和田アカネ

東野圭吾の献身——原作と映像の間

井澤真弓

そして私たちは大人になる

——宮部みゆきの描く少年少女像

高橋彩夏

青春のバイブル

——若手女性小説家の小説論

田宮梨沙

『ライトノベルにおける「萌え」』

——「スレイヤーズ」はなぜ萌えないのか

——

李悠和

在日のアイデンティティ

——私は何人なのだろうか？

影山輝國ゼミ

江本未来

上村佳美

綱島美樹

戸井田理紗

中山真理子

寺沢萌映

宮澤美佳

東有美

敦煌本『論語疏』研究

——大槻本との比較を通して

関索の研究

——『花関索伝』と『三国志演義』を中

心に

漢詩における『紫』の表現について

——李白と杜甫を中心に

『列女伝』から見る劉向の女性観

孔子の弟子たち

——『論語』と『史記』に見える性格の比較考察

高杉晋作漢詩選

秋瑾——中国女性革命家

漢字の成り立ち

——藤堂・加藤・白川説の比較考察——

いて——

中西倫子
星新一研究面白さの表現方法

萩本綾子
平岩弓枝研究

——「御宿かわせみ」の世界——

早川記代
宮沢賢治研究

——宮沢賢治が抱く死生観——

原田香織
芥川龍之介研究

——児童文学作品から見た芥川龍之介——

渡邊静香
太宰治研究——太宰の考える女性——

宮沢賢治研究

——物語から読む、賢治の働くとは。——

布施有久子

——「私の個人主義」について——
——夏目漱石の人間性や価値観について

の推考——

山本恵子
よしもとばなな論

——よしもとばななの作品世界観——

平島瑛里
江國香織研究

——江國が描く愛のかたち——

栗原敦ゼミ

赤松真也子
大江健三郎研究

——「おかしな二人組」をめぐる——

大鐘麻里奈
村上春樹研究

大畑友里
『銀河鉄道の夜』論

——「子ども」をキーワードとして——

表谷茉莉子
向田邦子研究

——向田邦子の人生と作品——

鬼頭朋子
宮沢賢治「銀河鉄道の夜」論

——「通過儀礼」としての物語——

小林明菜
宮沢賢治研究——音楽を中心に——

佐藤恵
宮沢賢治の造語・命名考

——童話を中心として——

宿谷裕美
村山由佳研究

——銀河鉄道の夜で見る「本当の幸」——

鈴木麻未
宮沢賢治研究

——宮沢賢治研究

内藤陽子

——宮沢賢治童話作品における擬人につ

河野龍也ゼミ

渡部友美

芥川龍之介「河童」論
対話から見い出す活路

渡部里紗

—— 宮沢賢治作品の「人間」と「動物」

赤石ゆき野

宮沢賢治の見た銀河鉄道

—— 銀河鉄道の夜に見る死と星の関係 ——

小野さおり

よしもとばなな「イルカ」論

—— 女性という存在 ——

小林奈央

『深い河』における美津子と信仰
—— 神を巡る美津子・大津の関係 ——

木村苑子

太宰文学における「欲」

—— 『人間失格』論 ——

田代綾子

梶井基次郎「檸檬」・「瀬山の話」論

高橋真菜美

芥川龍之介の童話

金子みすゞ論

横井孝ゼミ

源氏物語女性比較論

—— 子供のような大人の目 ——

堤谷真子

太宰治「お伽草紙」

—— 語る「私」について ——

牛尾玲菜

—— 藤壺宮・紫上・女三宮を中心に ——

南雲文

芥川龍之介「歯車」論

—— 僕の在る世界／僕の或世界 ——

遠藤沙央理

源氏物語の現代語訳

『風の歌を聴け』論

—— 「僕」と「鼠」の二つの物語 ——

鷹野亜希子

紫式部とその夫・藤原宣孝

平賀ことみ

中島敦文学における運命観

—— 「山月記」を中心に ——

平山奈々江

『源氏物語』女性比較論

村上春樹「ノルウェイの森」論

—— 傷ついた者たちの選択 ——

村井真理

源氏物語試論

松本祐菜

江戸川乱歩「押絵と旅する男」論

—— 六条御息所と明石の君 ——

石川由貴

「紫式部集と源氏物語」源氏物語に反映
された紫式部の体験 ——

三石中音

—— 六条御息所と明石の君 ——

山内博之ゼミ

赤川那甫

接頭辞「薄(うす)」の意味・用法に関する研究

浅見愛子

「かわいい」と「かわいらしい」の使い分けに関する研究

天野佑希

授受補助動詞を用いた依頼表現に関する研究

伊藤愛

「病気にかかる」「病気になる」「病気をする」の使い分けに関する研究

萩原知世

「教える」「告げる」「伝える」の使い分けに関する研究

小山夕貴

「際立つ」「目立つ」「引き立つ」の使い分けに関する研究

佐藤希望美

漫画における告白の表現に関する研究

佐藤磨美

漫画の中の幼児の話し方に関する研究

鈴木彩

補助動詞「すぎる」の意味・用法に関する研究

鈴木佳奈

「ゆっくり」「のんびり」「きままに」の使い分けに関する研究

永井絵理子

間投性終助詞「サ」の意味・用法に関する研究

星なつみ

——群馬方言と共通語を比較して——
文末の促音の修辭的效果について

松平千夏

「そうです」と「そうですね」の意味・用法に関する研究

峰村亜津早

接尾語「げ」の意味・用法に関する研究

村野緑

「何ヲ」の意味・用法に関する研究

山上聡美

副詞と受動化の関係について

小宮山千聖

日本語教科書に収録されている語彙の性質について——五味太郎の絵本『言葉図鑑』との比較調査から——

牧野和夫ゼミ

内田綾香

日本における中世の十王経の一考察
近現代の義仲像の分析を通して

清水麻衣

——義仲の最期について——
平重盛に関する二、三の考察

高橋ひかり

——延慶本を中心にして——
延慶本『平家物語』の「磁石」と「ワザハ

高見美帆香

ヒ」説話

土田知沙 近代以降における平知盛像

中島ゆい 梶原景時像について

西羅真菜美 中世における男色関係

——『台記』を中心に——

松本優香 熊野と『平家物語』

宮川祐美子 平重衡像

矢島聡子 『新出宮嶋由来記』について

——和歌を中心に考える——

山越法子 酒吞童子の生成における諸問題

福嶋健伸ゼミ

青島百合子 静岡方言「ダラ」「ラ」に関する考察

——共通語「でしよう」との同異から——

石原佳永 寂寥・悲愁を表す言葉の使い分け

——『源氏物語』における「心細し」と

「ふいし」——

大沼碧 明治30年代小説の一人称表現と文末表現

——世代差か、位相差か——

田中彩 山梨県国中地方の方言に関する研究

——「やせったいから座っていなさい」

筒浦彩加 「心の中で思う」の「心の中で」は冗長

か?——明治・大正小説と平成小説の違

い——

友寄佑香 「オホシ」と「オホカリ」——『今昔物語

集』を通じて見られる相違とは——

内藤百合子 『竹取物語』の地の文における敬意表現に

関する研究

——敬語が使われる場合と使われない場

合——

長谷川綾 正徹本『徒然草』の送り仮名

山下朋美 西と東の漫才

——方言によって違いは生まれるのか——

渡邊彩香 八王子方言——千葉と山梨からの影響——

近藤みゆきゼミ

朝日美紀 『古今和歌集』四季歌の世界

石川紫乃 『古今和歌集』『源氏物語』における厭世

観——「世」、「世の中」を中心に——

岩崎瑠莉恵

光源氏の恋愛表現

藏本彩

桃太郎と舌切雀

——和歌からのアプローチ——

——『桃太郎発端説話』を中心に——

大塚真梨

『古今和歌集』における「雨」と「雪」

小林舞

御伽草子の研究

——日本の美意識に関する一考察——

——一寸法師と小男の草子の関係について——

小澤那菜

『古今和歌集』における「涙」と「夢」

小原千佳

「山東京伝と出版統制」

——古今恋歌の世界——

鈴木めぐみ

近松門左衛門の研究

加賀美正恵

『古今和歌集』論——恋歌を流れる吉野川——

——世話浄瑠璃の成立——

熊谷愛美

『古今和歌集』と『伊勢物語』周辺の「ゆめ」

五味友理菜

『古今和歌集』恋歌論——男歌と女歌——

佐藤愛

『古今和歌集』恋歌研究

——「忘る」「忘れず」をめぐって——

平野史枝

『古今和歌集』涙歌論

宮田亜以美

『古今和歌集』恋歌に見られる植物

——平安歌人は草花に何を託したのか——

佐藤悟ゼミ

大西優紀

『忠義水滸伝』と『忠臣水滸伝』

加藤茜

『復讐奇談七里浜』の研究

——一溪庵市井について——